グローバル・スタディーズ研究センター
2019 年度プロジェクト

2019-1
2019 年 10 月～2020 年 1 月開催
静岡県立大学グローバルスタディーズ研究センター（CEGLOS）移動大学＠みなくる「映画で知ろう！　移民・難民」

本センターは 10 月 5 日（土）より、移動大学＠みなくる「映画で知ろう！　移民・難民」を開催いたします。

2019 年 4 月の改正入管法施行で、日本はより多くの移民を受入れます。国境を超える人の移動と移民・難民の暮らしについて、映画を見ながら一緒に学びませんか。静岡県立大学国際関係学部の教員が厳選した映画を上映し解説します。

主催：静岡県立大学グローバルスタディーズ研究センター（CEGLOS）
共催：静岡市地域福祉共生センター（みなくる）
会場：静岡市立南部図書館２階　視聴覚ホール（静岡市駿河区南八幡町 3-1）
開催日・テーマ・解説者：
第 1 回　2019 年 10 月 5 日（土）　在日ブラジル人～サッカーがつなぐ家族と友情（解説・澤田敬人・宮地克徳）
第 2 回　2019 年 11 月 16 日（土）　国境を超えるインド人の恋愛模様（解説・冨澤かな）
第 3 回　2019 年 12 月 14 日（土）　シンガポールで働くフィリピン人家事労働者の想い（解説・石井由香・高畑幸）
第 4 回　2020 年 1 月 11 日（土）　気候変動により故郷を失う人びと（解説・湖中真哉）
第 5 回　2020 年 1 月 25 日（土）　アメリカで暮らすベトナム難民の望郷（解説・下條尚志）
上映作品の詳細はチラシをご覧ください。
時間帯：いずれも 9:30 会場、9:45 解説開始、10:00 本編スタート、12:00 まで
入場無料
定員 50 人（事前申し込みを優先）
電話・FAX・メールのいずれかで【参加希望日、お名前、緊急連絡先】をお知らせください。
TEL 054-201-9010
FAX 054-201-9020
メール　mina.ccrc（ここに@を入れて下さい）　u-shizuoka-ken.ac.jp

※FAX、メールの場合は、件名を「映画上映参加希望」としてください。

静岡県立大学グローバルスタディーズ研究センター（CEGLOS）
移動大学@みなくる

映画で知ろう！

移民・難民

2019年4月の改正入管法施行で、日本はより多くの移民を受入れます。国境を超える人の移動と移民・難民の暮らしについて、映画を見ながら一緒に学びませんか。
静岡県立大学国際関係学部の教員が厳選した映画を上映し解説します。

第1回
10/5
在日ブラジル人 ～サッカーがつなぐ家族と友情

第2回
11/16
国境を超える インド人の恋愛模様

第3回
12/14
シンガポールで働く フィリピン人 家事労働者の想い

第4回
1/11
気候変動により 故郷を失う人びと

第5回
1/25
アメリカで暮らす ベトナム難民の望郷

開催日：2019年10月5日（土）、11月16日（土）、12月14日（土）、2020年1月11日（土）、1月25日（土）

時間：いずれも9:30開場、9:45解説開始、10:00本編スタート、12:00まで

会場：静岡市立南部図書館　2階 視聴覚ホール（静岡市駿河区南八幡町3-1）

入場無料　定員：50人（事前申し込みを優先）

申込方法：窓口・電話・FAX・メールのいずれかで【参加希望日、お名前、緊急連絡先】をお知らせください。
TEL 054-201-9010　FAX 054-201-9020　メール mina.ccrc@u-shizuoka-ken.ac.jp
※FAX、メールの場合は、件名を「映画上映参加希望」としてお送りください。

主催：静岡県立大学グローバルスタディーズ研究センター（CEGLOS）
共催：静岡市（地域福祉共生センター「みなくる」～地域健康オープンカレッジ2019～）

詳細は裏に

第１回：在日ブラジル人～サッカーがつなぐ家族と友情　2019年10月5日㊏

●解説者：澤田敬人（国際関係学部教授）・宮地克徳プロデューサー

●映画タイトル：サンゴーヨン☆サッカー（2015年）

●映画の舞台：日本　●言語：日本語音声、ポルトガル語字幕　●上映時間：64分

●テーマ：ブラジルから日本へ帰国した父親と娘の家族の絆と、国境を超えたブラジル人の友情を描く。

解説者からのメッセージ：日本有数のブラジルタウン・群馬県大泉町を舞台にした市民協働参画型「まち映画」です。スペインのトマト祭り等をアイディアとして採用し公道を使ったイベント「サンゴ―ヨン☆サッカー」を共生の観点から堪能してください。

澤田敬人

宮地克徳

第２回：国境を超えるインド人の恋愛模様　2019年11月16日㊏

●解説者：冨澤かな（国際関係学部准教授）

①映画タイトル：Dilwale Dulhania Le Jayenge（DDLJ 勇者は花嫁を奪う）（1995年）

●映画の舞台：イギリス・スイス　●言語：ヒンディー語音声、英語字幕（講師が補足します）

●テーマ：インド系イギリス移民がヨーロッパとインドで繰り広げる恋の行方は？

②映画タイトル：Kabhi Kushi Kabhie Gham…（家族の四季―愛すれど遠く離れて―）（2001年）

●映画の舞台：イギリス　●言語：ヒンディー語音声、日本語字幕

●テーマ：３組の大スターの豪華競演でインドとイギリスを舞台に描く家族の愛と再生の物語。

③映画タイトル：Kal Ho Na Ho（たとえ明日が来なくても）（2003年）

●映画の舞台：アメリカ　●言語：ヒンディー語音声、日本語字幕

●テーマ：NY を舞台に３人の男女が織りなす友情と成長と恋、そして別れを描く感動作。

④映画タイトル：My Name is Khan（マイ・ネーム・イズ・ハーン）（2010年）

●映画の舞台：アメリカ　●言語：ヒンディー語音声、日本語字幕

●テーマ：アスペルガー症候群のムスリム青年の NY での愛と生活は 9.11 事件で大きく変わり…。

●上映時間：インド映画は１本が２～３時間と長いため、各映画の一部をお見せしながら解説します。

解説者からのメッセージ
娯楽映画はインドが誇る文化です。名作映画の記憶は幾重にも重なって、多様性に満ちたインド世界の共通語彙を形作ってきました。シャー・ルク・カーン主演の名作恋愛映画4本で、在外インド人の物語をたどります。

冨澤かな

©2013 SINGAPORE FILM COMMISSION, NP ENTERPRISE (S) PTE LTD, FISHEYEPICTURES PTE LTD

第３回：シンガポールで働くフィリピン人家事労働者の想い　2019年12月14日㊏

●解説者：石井由香・高畑幸（いずれも国際関係学部教授）

●映画タイトル：イロイロ～ぬくもりの記憶（2013年）

●映画の舞台：シンガポール　●言語：英語音声、日本語字幕　●上映時間：99分

●テーマ：アジア通貨危機後のシンガポール人家庭で働くフィリピン人家事労働者と子どもの心のふれあいと別れ。

解説者からのメッセージ：シンガポール人監督が自分の幼少時代の経験をもとに、移民家事労働者と雇用主家族の関係、雇用主家族の人間関係をたくみに描いています。シンガポールの「今」にもつながる社会、家族のあり方を知ることができる映画です。

石井由香

高畑幸

第４回：気候変動により故郷を失う人びと　2020年1月11日㊏

●解説者：湖中真哉（国際関係学部教授）

●映画タイトル：ビューティフル アイランズ ～気候変動 沈む島の記憶～（2009年）

●映画の舞台：ツバル、イタリア、アメリカ　●言語：英語・イタリア語他音声、日本語字幕

●上映時間：106分

●テーマ：気候変動で水没の危機に瀕している地域の失われゆく生活と文化を綴るドキュメンタリー。

解説者からのメッセージ：この映画では、南太平洋のツバル、イタリアのベネチア、アラスカのシシマレフ島で、故郷を愛して生きる人々の普通の暮らしが気候変動によって失われる危機にあることを描いており、環境難民の悲哀を伝えています。

湖中真哉

第５回：アメリカで暮らすベトナム難民の望郷　2020年1月25日㊏

●解説者：下條尚志（国際関係学部助教）

●映画タイトル：ベトナムを懐（おも）う（2017年）

●映画の舞台：ベトナム、アメリカ　●言語：ベトナム語・英語音声、日本語字幕

●上映時間：88分

●テーマ：難民が抱える苦悩と世代間葛藤は、家族の過去との対話の中でどう乗り越えられるか。

解説者からのメッセージ：20 世紀ベトナムは戦争や社会主義を背景に、多くの難民を世界へ排出しました。難民が移住地で抱える苦悩や世代間葛藤を、ベトナム本国の映画監督が取り上げた意義は大きいです。その目的は難民各世代の対話、また難民と母国の人々の対話です。

下條尚志

2019-2

2019 年 10 月 16 日（水）開催

カリフォルニア大学バークレー校東アジア研究所パネルディスカッション

本学大学院国際関係学研究科附属グローバル・スタディーズ研究センターはこれまで本学の交流協定校であるカリフォルニア大学バークレー校日本学研究センターとジョイントセミナーの開催などで交流を深めてまいりました。来る 10 月 16 日（水）にバークレー校東アジア研究所との共同で開催するセミナーで本学グローバル・スタディーズ研究センター研究員がパネリストとして参加いたします。

バークレー校の東アジア研究所は、日本学研究センター、東南アジア研究センター、中国学研究センター、韓国学研究センター、仏教学研究センターなどの研究センターを束ねる機関で、今回のインド、ベトナム、日本のような横断的なテーマにも対応することができます。

パネルディスカッション　Renarrating the Past:Conflict and Negotiation of Narratives along the Borders of India, Vietnam, andJapan

開催日時　2019 年 10 月 16 日（水）午後 4 時～6 時（現地時間）

場所　カリフォルニア大学バークレー校 Doe Library

イントロダクション

Keiko Yamanaka カリフォルニア大学バークレー校エスニック研究学部

Dana Buntrock カリフォルニア大学バークレー校建築学部、日本学研究センター長

発表者

Kana Tomizawa（冨澤かな）　静岡県立大学グローバル・スタディーズ研究センター研究員

テーマ　How to Narrate Opressed Grief: fromYasukuni to Calcutta

Hisashi Shinojo（下條尚志）　静岡県立大学グローバル・スタディーズ研究センター研究員

テーマ　Belonging and Religion in aMulti-Ethnic Society: Cross-Border Migration by Khmer Theravada Buddhist Monksin Vietnam's Mekong Delta

討論者

Mark Blum カリフォルニア大学バークレー校東アジア言語文化研究

Penny Edwards カリフォルニア大学バークレー校南アジア・東南アジア研究

カリフォルニア大学バークレー校東アジア研究所によるイベント紹介（URL）

https://events.berkeley.edu/index.php/calendar/sn/ieas.html?event_ID=127672&date=2019-10-16&filter=Secondary%20Event%20Type&filtersel=

お問い合わせ

グローバル・スタディーズ研究センター

国際交流委員会専門委員（バークレー校担当）澤田
sawada（ここに@を入れて下さい）u-shizuoka-ken.ac.jp

2019-3
2019 年 11 月 23 日（土）・24 日（日）開催
東南アジア学会第 101 回研究大会

2019 年 11 月 23 日（土）～24 日（日）に東南アジア学会第 101 回研究大会を、静岡県立大学で開催します。なお、同学会と国際関係学研究科附属グローバル・スタディーズ研究センターの共催で、シンポジウム「東南アジアと日本の長期変動―人口変動・労働移民・少子高齢化」を 11 月 23 日 13:00～15:45 に大講堂で行います。

本学の鬼頭宏学長、大阪大学の桃木至朗教授、京都大学の速水洋子教授、また本学の高畑幸教授にご登壇いただき、過去千年の間に東南アジアと日本が経験した長期変動を比較し、近年急速に進展する人口変動、労働移民の流入、少子高齢化を検討します。国境線にとらわれずにアジアというグローバルな空間を設定し、各地で相互に関連して進んできた長期変動のなかで現在を理解することを試みます。

日時：11 月 23 日(土)9:00～18:35、11 月 24 日(日)9:00～16:10
会場：国際関係学部棟(シンポジウムは大講堂)
※駐車場はありませんので、公共の交通機関をご利用ください
参加費無料(非学会員でも参加可能・予約不要)
詳細は下のポスターを御参照ください。

東南アジア学会第101回研究大会（2019年11月23日～24日）シンポジウム

東南アジアと日本の長期変動

―人口変動・労働移民・少子高齢化

The Longue Durée in Southeast Asia and Japan: Demographic Change, Labour Migration, and Aging Societies

過去千年の間に東南アジアと日本が経験した長期変動を比較し、近年急速に進展する人口変動、労働移民の流入、少子高齢化を考える。国境線にとらわれずにアジアというグローバルな空間を設定し、各地で相互に関連して進んできた長期変動のなかで現在を理解する。

2019年11／23(土) 13:00～15:45

参加費無料
非会員でも参加可能
予約不要

静岡県立大学草薙キャンパス 大講堂
静岡市駿河区谷田52-1（JR東海道線草薙駅・静鉄草薙駅から徒歩15分）

スケジュール

13:00-13:05　趣旨説明 …… 司会　玉置 泰明（静岡県立大学）
13:05-13:30　日本列島における人口の長期波動と文明システムの転換 …… 鬼頭 宏（静岡県立大学）
13:30-13:55　人口と人の移動から見た東南アジアの長期変動 …… 桃木 至朗（大阪大学）
13:55-14:20　高齢化する東南アジア社会は日本と同じ道をたどるのか―タイの事例から …… 速水 洋子（京都大学）
14:20-14:45　東南アジアから日本への「労働力」と「人」の移動：1980年代以降を中心に …… 高畑 幸（静岡県立大学）
14:45-15:15　発表者による相互コメント
15:15-15:45　会場からの質疑と応答

主催：東南アジア学会　共催：静岡県立大学国際関係学研究科附属グローバル・スタディーズ研究センター
研究助成：静岡県立大学教員特別研究推進費（令和元年度・代表・下條尚志）「東南アジア学会第101回研究大会」

東南アジア学会
Japan Society for Southeast Asian Studies
第101回研究大会

2019年
11/23 土 9:00～18:35
11/24 日 9:00～16:10

静岡県立大学 草薙キャンパス
静岡市駿河区谷田 52-1
（JR 東海道線草薙駅・静鉄草薙駅から徒歩 15 分）

参加費 無料
- 非会員でも参加可能
- 予約不要

11/23 saturday 9:00～18:35

9:00 受付開始

A会場（国際関係学棟3108号教室）

9:30 開会の辞（会場校）

自由研究発表 …… 司会　菅谷 成子

9:40 ●観光にみる地域文化の変容と表象：インドネシア錫鉱山地域の事例 …… 二重作 和代（京都大学大学院・博士課程）

10:15 ●第2次世界大戦中のバンコクにおける日本軍駐屯地の変遷 …… 柿崎 一郎（横浜市立大学）

10:50 ●フィリピンにおける賭博の規制と管理の変遷 …… 師田 史子（京都大学大学院・博士課程）

11:25 ●19世紀～20世紀初頭ミンダナオ島ラナオ地方における紙の流通：イスラーム写本に使用された紙の検討を通じて …… 川島 緑（上智大学）

B会場（国際関係学棟3316号教室）

9:30 開会の辞（会場校）

自由研究発表 …… 司会　大野 美紀子

9:40 ●なぜモンなのか？：歴史的・地理的状況にみる遊動狩猟採集民ムラブリのパートナーシップ選択 …… 二文字屋 脩（早稲田大学）

10:15 ●動揺としての祖先祭祀：ベトナム村落部における「家族の祀堂」建設ブームの分析 …… 加藤 敦典（京都産業大学）

10:50 ●タイ国の大乗仏教教団 …… 片岡 樹（京都大学）

12:00 昼食休憩

C会場（大講堂）

13:00 大会シンポジウム「東南アジアと日本の長期変動：人口変動・労働移民・少子高齢化」 …… 司会　玉置 泰明（静岡県立大学）
13:05 ●日本列島における人口の長期波動と文明システムの転換 …… 鬼頭 宏（静岡県立大学）
13:30 ●人口と人の移動から見た東南アジアの長期変動 …… 桃木 至朗（大阪大学）
13:55 ●高齢化する東南アジア社会は日本と同じ道をたどるのか：タイの事例から …… 速水 洋子（京都大学）
14:20 ●東南アジアから日本への「労働力」と「人」の移動：1980年代以降を中心に …… 高畑 幸（静岡県立大学）
14:45 発表者による相互コメント
15:15 会場からの質疑と応答

15:45 休憩

15:50 会員総会
16:50 第 16 回東南アジア史学会賞受賞記念講演「ベトナム労働問題研究からみる都市・農村関係」 …… 藤倉 哲郎（愛知県立大学）
17:35 第17回東南アジア史学会賞授賞式・受賞記念講演

11/24 sunday 9:00～16:10

9:00 受付開始

A会場（国際関係学棟3108号教室）

9:30 パネル１「カンボジア農村の生業変容に関する個別性と普遍性：東南アジア農村の将来」 …… 司会　小林 知（京都大学）

趣旨説明 …… 小林 知

9:40 報告１ ポーサット州の生態環境と土地利用の変遷 …… 星川 圭介（富山県立大学）

10:10 報告２ ポーサット州村落サーベイ：家族・地域社会・生業転換 …… 小林 知（京都大学）

10:40 休憩

10:50 報告３ ポーサット州農業の変容 …… 矢倉 研二郎（阪南大学）

11:20 報告４ ポーサット州における稲作栽培体系の特徴と変容 …… 本間 香貴（東北大学）

12:00 昼食休憩

13:20 報告５ トンレサープ湖の小規模漁業と資源管理 …… 堀 美菜（高知大学）

13:50 報告６ ポーサット州山地フロンティアにおける農地開拓の過程 …… 百村 帝彦（九州大学）

14:20 休憩
14:30 コメント１ …… 松田 正彦（立命館大学）
コメント２ …… 阿部 健一（総合地球環境学研究所）
15:00 質疑応答

B会場（国際関係学棟3316号教室）

9:30 Panel 2 Hidden hands of the Great Powers in Indonesia: Critical examinations of US Academia in the Cold War …… Moderator　KITAMURA Yumi (Kyoto Univ.)

Summary of the panel …… KOCHI Kaoru (Kanda Univ. of International Studies)

9:35 Presentation 1 Army – Academia relations in Indonesia: Soewarto and SESKOAD as a cradle for the New Order …… KOCHI Kaoru (Kanda Univ. of International Studies)

10:05 Presentation 2 A cautionary tale of arrogance: The Harry Benda translation of Japanese Military Administration in Indonesia and the US …… William Bradley Horton (Akita Univ.)

10:35 Presentation 3 Academic money laundering during the Cold War: The case of the MIT Indonesia Project …… YAMAMOTO Mayumi (Miyagi Univ.)

11:05 Break
11:15 Comment …… Michael J. Montesano (ISEAS, Yusof Ishak Institute)
11:35 Q & A

13:15 パネル３「東南アジアにおける「イスラーム国」のインパクト」 …… 司会　見市 建（早稲田大学）

趣旨説明 …… 見市 建

13:20 報告１「マウテ・グループ」台頭とマラウィ市街戦：フィリピン南部の和平プロセスからの一考察 …… 石井 正子（立教大学）

13:50 報告２ マレーシアにおける「イスラーム国」支援者の背景：イスラーム運動の多様化と分断 …… 塩崎 悠輝（静岡県立大学）

14:20 報告３ インドネシアにおけるIS台頭のパラドックス：分裂と国内政治への参与 …… 見市 建

14:50 休憩
15:00 コメント …… 溝渕 正季（名古屋商科大学）
15:15 質疑応答

16:10 閉会の辞 …… 土佐 桂子（東南アジア学会会長）

主催：東南アジア学会　共催：静岡県立大学国際関係学研究科附属グローバル・スタディーズ研究センター　研究助成：静岡県立大学教員特別研究推進費（令和元年度・代表・下條尚志）「東南アジア学会第101回研究大会」

2019-4
2020 年 2 月 1 日開催
国際ワークショップ「Thinking Resilience and Development from the “Exceptional”Africa」

海外からのゲストをお招きして、国際ワークショップを下記要領にて開催致します。入場無料・事前予約不要で、どなたでも参加できます。ご参加をお待ちしております。

JSPS KAKENHI, Grant-in-Aid for Scientific Research (A) 18H03606; Center for Global Studies, Graduate School of International Relations, University of Shizuoka; Core Project(Anthropology): "The Potential Value of Indigenous Knowledge in Managing Hazards in Asia and Africa", The Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies

International Workshop Thinking Resilience and Development from the "Exceptional" Africa

Aims and Scopes:

Since the adoption of MDGs and subsequent SDGs, and pledging that "no one will be left behind," African rural areas, which are considered to have been left behind, are attracting special attention internationally. This is based on the assumption that developmental efforts have been successful globally "except" for the marginalized areas in Africa. East African pastoralists are among the usual targets of various international humanitarian and developmental efforts since the Ethiopian famine in 1984. Pastoralists are currently considered to be suffering from extreme poverty, low intensity conflict, climate change, land grabbing, and land fragmentation. As a result, "crisis narratives with resilience thinking" have become dominant in humanitarian and developmental efforts in the area.

Recently, Emery Roe questioned a common narrative that Africa is the exception when it comes to development. He proposed to formulate counternarratives on African development as an alternative. This workshop intends to explore the counternarratives of African development starting from examining what is happening in the marginalized areas of Africa that have been labelled as an "exception" to the development. Instead of focusing on the risk avoidance culture, which is the basis of crisis and resilience narratives, we focus on the risk acceptance culture among the pastoralists and urban dwellers. What we intend here is not to adapt so-called "resilience thinking" to each field, but rather apply "thinking resilience" in the

context of livelihood in Africa.

Date: February 1st, 2020

Venue: Keio University, Mita Campus, South building room 2B23 (2nd basement)2-15-45 Mita, Minato-ku, Tokyo 108-8345 Japan

Admission free, advance reservations not required

Contacts: Shinya KONAKA maaculture [at] gmail.com

Program

February 1st, 2020

13:00-13:10: Opening Remark Shinya KONAKA

13:10-14:30: Keynote Speech

Emery ROE A New Narrative for Pastoralism Today: Rethinking African Pastoralism within a Wider Framework

Presentations

14:30-15:00: Shinya KONAKA Rethinking Resilience of African Pastoralists in the Gaps

15:00-15:15: Coffee Break

15:15-15:45: Toru SAGAWA Pastoralists Start Fishing: Dynamics of Cultural Value on Non-Pastoral Activity among the Daasanach in East Africa

15:45-16:15: Xiaogang SUN Pastoralists' Perspective on Vulnerability and Response to Resilience Enhancing Project

16:15-16:45: Itsuhiro HAZAMA Citizenship Practice in the Resilience

16:45-17:15: Kenya ARAKI Digging out the Hope among Lottery Retailers and Punters: Case study in Lagos, Nigeria.

17:15-17:30: Coffee Break

17:30-18:00: Plenary Discussion

JSPS KAKENHI, Grant-in-Aid for Scientific Research (A) 18H03606
Center for Global Studies, Graduate School of International Relations, University of Shizuoka
Core Project (Anthropology): "The Potential Value of Indigenous Knowledge in Managing Hazards in Asia and Africa", The Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies

International Workshop

Thinking Resilience and Development from the "Exceptional" Africa

Aims and Scopes:

Since the adoption of MDGs and subsequent SDGs, and pledging that "no one will be left behind," African rural areas, which are considered to have been left behind, are attracting special attention internationally. This is based on the assumption that developmental efforts have been successful globally "except" for the marginalized areas in Africa. East African pastoralists are among the usual targets of various international humanitarian and developmental efforts since the Ethiopian famine in 1984. Pastoralists are currently considered to be suffering from extreme poverty, low intensity conflict, climate change, land grabbing, and land fragmentation. As a result, "crisis narratives with resilience thinking" have become dominant in humanitarian and developmental efforts in the area.

Recently, Emery Roe questioned a common narrative that Africa is the exception when it comes to development. He proposed to formulate counternarratives on African development as an alternative. This workshop intends to explore the counternarratives of African development starting from examining what is happening in the marginalized areas of Africa that have been labelled as an "exception" to the development. Instead of focusing on the risk avoidance culture, which is the basis of crisis and resilience narratives, we focus on the risk acceptance culture among the pastoralists and urban dwellers. What we intend here is not to adapt so-called "resilience thinking" to each field, but rather apply "thinking resilience" in the context of livelihood in Africa.

Date: February 1st , 2020
Venue: Keio University, Mita Campus, South building room 2B23 (2nd basement)
2-15-45 Mita, Minato-ku, Tokyo 108-8345 Japan
Admission free, advance reservations not required
Contacts: Shinya KONAKA maaculture [at] gmail.com

Program

February 1st, 2020

13:00-13:10: **Opening Remarks** Shinya KONAKA

13:10-14:30: **Keynote Speech**
Emery ROE A New Narrative for Pastoralism Today: Rethinking African Pastoralism within a Wider Framework

Presentations

14:30-15:00: Shinya KONAKA Rethinking Resilience of African Pastoralists in the Gaps

15:00-15:15: Coffee Break

15:15-15:45: Toru SAGAWA Pastoralists Start Fishing: Dynamics of Cultural Value on Non-Pastoral Activity among the Daasanach in East Africa

15:45-16:15: Xiaogang SUN Pastoralists' Perspective on Vulnerability and Response to Resilience Enhancing Project

16:15-16:45: Itsuhiro HAZAMA Citizenship Practice in the Resilience

16:45-17:15 Kenya ARAKI Digging out the Hope among Lottery Retailers and Punters: Case study in Lagos, Nigeria.

17:15-17:30: Coffee Break

17:30-18:00: **Plenary Discussion**

科研費 KAKENHI